

## ■平成 28 年度 第 2 回企画展

平成 28 年 10 月 1 日から平成 29 年 3 月末まで、「大阪府庁が建てられた時代 大正時代の大阪～モダン建築と庶民生活～」をテーマとする企画展を開催しました。

大阪府庁が建てられた大正時代の大阪は、新世界や千日前、道頓堀などの繁華街が活気に溢れ、人々がいきいき暮らした時代でした。現在の大阪府庁本館をはじめ、旧大阪ビルヂングや旧大阪市役所などのモダン建築が大正時代の大阪のまちに続々と建設されました。第 2 回企画展は、こうした大正時代の大阪の様子を、『大阪府写真帖』(大正 3 年[G0-2006-6])、『大阪市大観』(大正 14 年[G0-2006-7])や「大阪市パノラマ地図」、その他の写真や地図で大正時代の大阪を振り返りました。



「公館区」(『大阪府写真帖』)

大正時代には、市庁舎を中心とする中之島付近一帯は「公館区」と呼ばれていました。大阪市役所、府立図書館、中央公会堂、日本銀行大阪支店などはここにあり、堂島川を挟んで向かい側には、大阪控訴院、堂島ビル、堂島米穀取引所などが林立していました。



「大阪府立中之島図書館」(『大阪府写真帖』)

明治 37 (1904) 年に大阪府初の図書館として開館し、すでに 100 年を超えています。平成 8 (1996) 年に東大阪市の大阪府立中央図書館に主要な機能が移った後も、中之島図書館への大阪人の愛着は強いものがあります。

明治 33 年、大阪府会で図書館建設予算約 5 万円について審議中、住友家から建設費と図書購入費 25 万円の寄付を受け、緑のドームと玄関のギリシャ風列柱が特色の明治中期を代表する建築が誕生しました。昭和 49 (1974) 年には国の重要文化財に指定されました。



「大阪市庁舎」(『大阪市大観』)

明治 44 年 2 月、大阪市会において、新庁舎の位置は「本市ノ経済上及社交上ノ中枢二位シ且全国交通ノ要衝ニ接セル中之島公園」として現在地を選定、設計は懸賞公募されました。一席となったのは台湾総督府技師の小川陽吉で、これを基に片岡安らが実施設計を行い、大正 10 年 5 月、鉄骨・鉄筋コンクリート、地上 5 階・地下 1 階、約 2 万 900 平方メートルの新庁舎が竣工しました。塔矢まで約 52m あり、当時では市内で最も高いビルでした。昭和 57 (1982) 年 12 月、現在の庁舎と交代しました。